

世の中で話題になっているニュース等について知り、考えるためのヒントを得られるような資料情報をご紹介します。



## プラスチック汚染 (1) 現状・課題編

### 最近の新聞記事から

「プラごみ対策、範囲拡大へ、九都県市首脳会議、国に支援要望。」(日本経済新聞 2019年11月7日)

千葉県を含む南関東の9自治体(1都・3県・5政令指定都市)は、プラスチックごみによる海洋汚染対策を支援するよう、国に求めていくことを決定しました。

鼻にストローの刺さったウミガメのニュースに代表されるように、この問題への国際的な関心が高まっています。海に流れ込むプラスチックが食物連鎖を通じて生態系や人体に影響することなどが懸念されるためです。2019年5月のG20大阪サミットでは新たな汚染を2050年までにゼロにするよう目指すことで合意し、プラスチックの使用削減、再資源化の推進、代替素材への置き換えなど、対策が急がれています。

書名・記事名	出版情報等	
<b>海洋プラスチック汚染</b> <b>「プラなし」博士、ごみを語る</b>	中嶋亮太著 岩波書店 2019 西部：5194/101 <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">図書</span>	
海洋へ流入するプラスチックは、毎年1000万トン。形状は様々だが、破砕が進めば回収することは不可能と言われる。流入したプラスチックの動態、生態系に対するプラスチックの物理的な危険性や、化学物質の問題、また、人体や経済に与える影響、海洋への流出を防ぐための方策について、簡潔にまとめられている。		
<b>プラスチックスープの海</b> <b>北太平洋巨大ごみベルトは警告する</b>	チャールズ・モア著 NHK出版 2012 東部：5194/42 <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">図書</span>	
著者は、海洋環境の研究者として北太平洋ごみベルトの調査航海を行い、海洋汚染の危険を訴える活動の先駆者となった人物。海洋に漂う想像を絶する量のプラスチックごみが生態系に及ぼす深刻な影響、廃棄やリサイクルの難しさ、内分泌攪乱物質による人体への作用など、便利な生活に危機感を持たずにはいられない衝撃的な内容である。		
<b>特集：プラスチック大特集</b> <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">雑誌</span>	『NATIONAL GEOGRAPHIC 日本版』 日経ナショナルジオグラフィック社 2018年6月号(279号) p32-79 東部	
発展途上国で山積みになるビニール、不衛生なプラスチック分別の現場、犠牲になる野生動物、海洋プラスチックをいかに代りに漂着する外来種、ミジンコの体内で光るプラスチック片など、ビジュアルに訴える写真を収録。また、プラスチック削減を訴えるアートや、ヨーロッパの排出削減の取り組み事例を紹介している。		

<b>特集：プラスチック汚染</b>	『科学』 岩波書店 2019年1月号(1037号) p25-71 西部 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">雑誌</div>
<p>プラスチック対策は、持続可能な開発目標(SDGs)や脱炭素社会の世界的潮流のなかで、投資の分野でも注目されている。また、生態系への影響について、海鳥への化学物質の移行メカニズムや、サンゴと褐虫藻の共生関係へのリスクに関する研究報告を収録。その他、海洋流出を考えるうえで必要な淡水域(陸水域)のマイクロプラスチック調査事例として、琵琶湖と大阪湾の調査報告を収録している。</p>	
<b>特集：プラスチックごみ問題最前線</b>	『月刊廃棄物』 日報ビジネス 2020年1月号(586号) p3-24 西部 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">雑誌</div>
<p>国内外の動向・課題が簡潔に整理されているほか、使い捨てから循環へと、経済の視点から生産と消費・再利用のあり方がまとめられている。また、「プラスチック資源循環戦略」に基づく国の取り組みについて、環境省の担当局長から進捗状況が示されている。</p>	
<b>プラスチックごみをめぐる最近の動向 海洋プラスチックごみ問題への取組</b>	『立法と調査』 参議院事務局企画調整室 2018年11月号 (406号) p48-57 中央 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">雑誌</div>
<p>『立法と調査』は参議院議員向けに、政策課題や予算・税制などを解説した調査情報誌。プラスチックごみについて、海洋汚染やリサイクルの現状、使用削減に向けた各国・企業の取り組み事例、日本における今後の課題などが述べられている。参議院のサイトでも閲覧可能。  <a href="https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2018pdf/20181101048.pdf">https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2018pdf/20181101048.pdf</a></p>	
<b>マイクロプラスチックを含む海洋ごみ対策の推進</b>	『時の法令』 朝陽会 平成31年2月28日号(2068号) p21-31 中央 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">雑誌</div>
<p>『時の法令』は官報の姉妹版として創刊された法律解説雑誌。平成30年に改正された「海岸漂着物処理推進法」についての解説が掲載されている。新たにマイクロプラスチックに関する規定が設けられた背景や、日本のプラスチック政策に関する経緯の概略が把握できる。なお、環境問題の最新動向をおさえる資料として、『エネルギーと環境』(週刊)も速報性があり便利。</p>	
<b>海のプラスチックごみを減らし きれいな海と生き物を守る!</b>	政府広報オンライン <a href="https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201905/1.html">https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201905/1.html</a> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">Web情報</div>
<p>国の政策のうち、暮らしに身近なテーマを取り上げたサイト。海洋プラごみの原因・影響・対策について簡潔にまとめている。プラごみを減らすための行動を列挙するとともに、「プラスチック・スマート」と題して、プラスチックと賢く付き合うための取り組みを企業やNGOから個人まで幅広く募集・発信している。</p>	
<b>海洋プラスチック問題について</b>	世界自然保護基金(WWF) ジャパン <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">Web情報</div> <a href="https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html">https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html</a>
<p>国際的な環境保全団体のサイト。海洋プラごみ問題の状況について、様々なデータや地図・グラフ等の図版を用いて解説している。問題解決に向けて日本が何をすべきか、世界の潮流を踏まえて提言するとともに、WWFの取り組みを紹介している。</p>	